

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西・宮原	
科目名	基本構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	14コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車を各装置に分けて捉え、それぞれの概要を大まかに把握し、具体的な構造・機能の学習につなげることができる。				
◆概要	自動車全体について、装置ごとの取付け位置及び名称と役割を概括的に学習する。				
2. 授業の計画					
1	概要				
2	エンジン本体				
3	潤滑装置				
4	冷却装置				
5	燃料装置				
6	吸排気装置				
7	電子制御装置				
8	動力伝達装置				
9	アクスル及びサスペンション				
10	ステアリング装置				
11	ホイール及びタイヤ				
12	ホイールアライメント				
13	ブレーキ装置				
14	フレーム及びボデー				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	力学		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車の性能や状態を物理的・数理的な側面から考察し、整備や検査に役立てることができる。				
◆概要	自動車に用いられる基本的な力学・物理法則・原理を理解し、計算方法を学習する。				
2. 授業の計画					
1	力学で扱う物理量と単位・補助単位				
2	計算の基本(面積・体積等)				
3	速度(計算と単位変換)				
4	力とトルク				
5	ギヤ比、変速比				
6	遊星歯車の変速比				
7	圧力、パスカルの原理				
3. 使用教材(テキスト等)					
自動車整備士 計算の基礎と問題(公論出版)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	材料		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	10コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車部品に使用される種々の材料の特性を踏まえ、整備をする上での部品の取り扱い方や点検交換の要否を考慮することができる。				
◆概要	材料の種類ごとに、特性と用途を学習する。				
2. 授業の計画					
1	鉄鋼(鑄鉄・炭素鋼・特殊鋼、表面硬化処理)				
2	非鉄金属(アルミニウム・銅・亜鉛・錫など)				
3	焼結合金				
4	非金属(ゴム・セラミックス)				
5	合成樹脂と複合材(FRP・FRM)				
6	塗料(顔料・溶剤・樹脂)				
7	機械要素(ねじ・スプリング・ベアリング・ギヤなど)				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	燃料潤滑		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	10コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車のエンジンに使用される種々の燃料や、潤滑剤の特性を踏まえ、整備をする上での取り扱い方や点検交換の要否を考慮することができる。				
◆概要	燃料・潤滑剤の種類ごとに、特性と用途を学習する。				
2. 授業の計画					
1	精製				
2	発熱量				
3	ガソリン				
4	軽油				
5	LPG(液化石油ガス)				
6	CNG(圧縮天然ガス)				
7	オイル				
8	グリース				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	製図		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	10コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車の解説書や修理書に描かれた図面から正確に情報を読み取り、点検・整備に活用することができる。				
◆概要	図面を作成する上でのルールや手法の種類を学習し、実際に図面を作成する。				
2. 授業の計画					
1	図面に関する規格類				
2	第三角法				
3	用紙の種類と尺度				
4	線の種類				
5	図形の表示法				
6	断面法				
7	寸法線及び記号				
8	ねじ・軸受・ばね				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	エンジン		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	90コマ	授業場所	普通教室	前・後期	通年
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エンジン及びモータに関する基本的な知識を活用して、これらの点検・整備を行うことができる。				
◆概要	エンジン等の基本的な性能や構造・作動の原理及び整備の要点を学習する。				
2. 授業の計画					
1	概要				
2	エンジン本体				
3	潤滑装置				
4	冷却装置				
5	燃料装置				
6	吸排気装置				
7	電子制御装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	80コマ	授業場所	普通教室	前・後期	通年
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシに関する基本的な知識を活用して、これらの点検・整備を行うことができる。				
◆概要	シャシ基本的な性能や構造・作動の原理及び整備の要点を学習する。				
2. 授業の計画					
1	動力伝達装置				
2	アクスル及びサスペンション				
3	ステアリング装置				
4	ホイール及びタイヤ				
5	ホイールアライメント				
6	ブレーキ装置				
7	フレーム及びボデー				
8	シャシに関わる定期点検整備				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	電装		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	普通教室	前・後期	通年
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	電装品に関する基本的な知識を活用して、これらの点検・整備を行うことができる。				
◆概要	各電装品の基本的な性能や構造・作動の原理及び整備の要点を学習する。				
2. 授業の計画					
1	バッテリー				
2	始動装置				
3	充電装置				
4	点火装置				
5	予熱装置(ジーゼル)				
6	灯火装置				
7	計器				
8	ボデー電装品				
9	冷暖房装置				
10	サーキットテストの活用				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	法令		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	10コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	法令等の基本的な知識を活用し、自動車の点検・整備・車両検査を行うことができる。				
◆概要	自動車整備事業に関連する主要な法令・制度・基準等を概括的に学習する。				
2. 授業の計画					
1	自動車整備士技能検定制度のあらまし				
2	自動車に対する法規制の概要				
3	道路運送車両法				
4	道路運送車両法施行規則の別表				
5	自動車点検基準				
6	道路運送車両法の保安基準				
7	自動車Nox・PM法				
3. 使用教材(テキスト等)					
法令教材(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西・上坂	
科目名	シャシ実習		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	297コマ	授業場所	校内・実習場	前・後期	通年
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	基礎的な整備技能を活用して、シャシの基本的な装置の点検・整備を行うことができる。				
◆概要	シャシ各部のオーバーホール作業を通して、作業手順と注意事項を学習する。				
2. 授業の計画					
1	クラッチ／マニュアルトランスミッション				
2	トルクコンバータ／オートマチックトランスミッション				
3	プロペラシャフト／ドライブシャフト／ファイナルギア／ディファレンシャル				
4	アクスル／サスペンション				
5	ステアリング装置				
6	ホイール／タイヤ				
7	ブレーキ装置				
8	フレーム／ボデー				
9	シャシ総合				
3. 使用教材(テキスト等)					
三級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
単体部品、実車					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

[illegible]

[illegible]

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西・宮原・上坂	
科目名	資格取得・その他		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	76コマ	授業場所	普通教室	前・後期	通年
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	資格取得:各種資格・講習を活用して自動車整備を行うことができる。 就職活動:自らの希望に沿った企業から就職内定を得ることができる。				
◆概要	各種の資格講習や検定試験を受験する。また、企業研究等を行い就職活動に取り組む。				
2. 授業の計画					
1	【資格取得】 研削といしの取替え又は取替え時の試運転 特別教育				
2	【資格取得】 ガス溶接 技能講習				
3	【資格取得】 アーク溶接 特別教育				
4	【資格取得】 タイヤの空気充填 特別教育				
5	【就職指導】 就職活動の進め方				
6	【就職指導】 校内企業説明会				
7	【就職指導】 採用試験対策				
8	【資格取得】 低圧電気取扱 特別教育				
3. 使用教材(テキスト等)					
各資格講習の教本、工具・道具の実物 単体部品、実車など					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	力学		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車の性能や状態を物理的・数理的な側面から考察し、整備や検査に役立てることができる。				
◆概要	自動車に用いられる専門的な力学・物理法則・原理を理解し、計算方法を学習する。				
2. 授業の計画					
1	バルブタイミング				
2	軸重(乗用車、トラック)				
3	排気量と圧縮比				
4	エンジン回転数と平均ピストンスピード				
5	エンジン回転数と変速比と車速				
6	加速度				
7	仕事と出力				
3. 使用教材(テキスト等)					
自動車整備士 計算の基礎と問題(公論出版)					
二級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西	
科目名	シャシ		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	90コマ	授業場所	普通教室	前・後期	通年
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	シャシに関する専門的な知識を活用して、これらの点検・整備・故障原因の探求を行うことができる。				
◆概要	シャシ各部の性能や構造・作動の原理及び整備の要点を詳細に学習する。				
2. 授業の計画					
1	総論				
2	動力伝達装置				
3	アクスル及びサスペンション				
4	ステアリング装置				
5	ホイール及びタイヤ				
6	ホイールアライメント				
7	ブレーキ装置				
8	フレーム及びボデー				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	電装		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	電気装置に関する専門的な知識を活用して、これらの点検・整備・故障原因の探求を行うことができる。				
◆概要	各電装品の性能や構造・作動の原理及び整備の要点を詳細に学習する。				
2. 授業の計画					
1	半導体				
2	バッテリー				
3	始動装置				
4	充電装置				
5	点火装置				
6	計器				
7	警報装置・外部診断器				
8	空気調和装置				
9	配線・安全装置及び付属装置				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西・宮原	
科目名	故障探求		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	自動車の使用者からの訴えと実際に発現している不具合現象から原因を特定し、問題を解決することができる。				
◆概要	故障診断の一般的な手順と、装置ごとに特有の故障および診断の要点を学習する。				
2. 授業の計画					
1	概要				
2	効率的な診断				
3	診断の基本				
4	故障診断の進め方				
5	問診				
6	現象の確認				
7	原因の推定				
8	再発の防止				
9	エンジンの不具合現象とその原因探究				
10	シャシの不具合現象とその原因探究				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西・宮原	
科目名	電子制御		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	電子制御装置(先進安全技術)に関する専門的な知識を活用して、これらの点検・整備を行うことができる。				
◆概要	電子制御装置(先進安全技術)の性能や構造・作動の原理及び整備の要点を学習する。				
2. 授業の計画					
1	概要				
2	カメラ(単眼／複眼)				
3	ミリ波レーダ				
4	赤外線レーザ				
5	電子制御装置の整備に必要な重要事項				
6	故障診断の手順				
7	電子制御装置整備の作業方法				
8	ターゲット				
9	スキャンツール				
3. 使用教材(テキスト等)					
二級自動車整備士(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	宮原	
科目名	法令		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	法令等の専門的な知識を活用し、自動車の日常点検・定期点検・車検作業を行うことができる。				
◆概要	自動車整備事業に関連する主要な法令・制度・基準等を詳細に学習する。				
2. 授業の計画					
1	自動車整備士技能検定制度				
2	自動車に対する法規制の概要				
3	道路運送車両法				
4	道路運送車両法施行規則の別表				
5	自動車点検基準				
6	道路運送車両法の保安基準				
7	自動車Nox・PM法				
3. 使用教材(テキスト等)					
法令教材(日本自動車整備振興会連合会発行)					
4. 成績評価の方法					
科目試験、出席、授業態度、課題・レポート状況などにより総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による評価を100点に換算し、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)、60点未満をD(不可)とする。					
6. 履修上の注意					
成績評価がD(不可)の場合、履修認定を受けるために再試験の受験や補習授業への出席等を要する。					
7. その他					
自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西・宮原	
科目名	検査		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	23コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	車検に関する専門的な知識を活用して、車両検査の作業を行うことができる。				
◆概要	車検制度に係る法律と、検査機器の取扱い方法及び作業の流れを学習する。				
2. 授業の計画					
1	車検制度と保安基準				
2	検査項目				
3	車検の流れ				
4	検査機器(検査ライン)				

[illegible]

自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。

[illegible]

自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。

自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。

自動車の点検・車検整備、一般修理等の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教育を行う科目である。

学科 ＜専攻＞	自動車整備学科		担当者	河西・宮原・上坂	
科目名	資格取得その他		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	66コマ	授業場所	普通教室	前・後期	通年
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	二級自動車整備士の資格試験(筆記)に合格できる。				
◆概要	練習問題、過去問題及び模擬試験に繰り返し取り組み、検定試験に備えて学習する。				
2. 授業の計画					
1	装置別練習問題(エンジン)				
2	装置別練習問題(シャシ)				
3	装置別練習問題(電気装置)				
4	基礎工学練習問題				
5	法令練習問題				
6	過去問題(総合)				
7	模擬試験(総合)				